

阿波の民家

林茂樹

※講義内容すべてを紹介できないので、お話しした項目を下に挙げます。

序説 はじめに

A 藩政時代の阿波

B 住まいの形態

- ①住まいの地域的区分 ②住まいの類型 ③構造 ④天井 ⑤階数
- ⑥玄関の勝手 ⑦平面形式 ⑧部屋の呼び名と住まい方

1 山の住まい

- 1-1. 祖谷 1-2. 四国山地南地域 1-3. 四国山地北地域
- 1-4. 阿讃山脈南地域はじめに

2 海の住まい

- 2-1. 鳴門の塩田地域 2-2. 県南の漁村集落 2-3. 海に関わる住まい

3 平野の住まい

- 3-1. 武士 3-2. 庄屋 3-3. 藍づくりの豪商 3-4. 一般農家 3-5. 商家
- 3-6. 医師の住まい

4 その他

- 4-1. 農村舞台 4-2. お堂 4-3. 遍路宿 4-4. 銭湯

序説 はじめに

民家とは近世以前における寝殿造りに代表される支配階級の住宅以外の住まい。

A 藩政時代の阿波

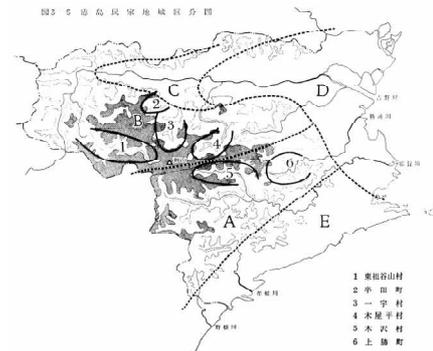
徳島の伝統的な住まいを理解する助けとするため、江戸時代の徳島について概説する。

- ・藩士は徳島城下に集中居住。
- ・徳島藩独自の社会階級・身分制度「身居(みずわり)」がある。
- ・在郷の士分は村方に居住することを許された上級藩士の家来か、御鉄砲(おてっぽう)や原土(はらし)といった特殊な集団であった。
- ・漁村の加子(かこ)も身居のひとつで、安宅・沖須浦に住み御船役所に出仕する官僚と、淡路を含む藩内 68 浦の住人で藩主の参勤交代などに臨時招集される浦加子があった。加子屋敷とはそのような水軍の船乗りの暮らす住まい。
- ・士分格でない支配層に、有力農民から選任された以下のような村方役人がある。
組頭庄屋：数か村に一人 庄屋：一村に一人 肝煎(きもいり) 五人組
- ・支配層である武士や庄屋の住まいではゲンカン構えという接客重視の住まいが多い。

B 住まいの形態

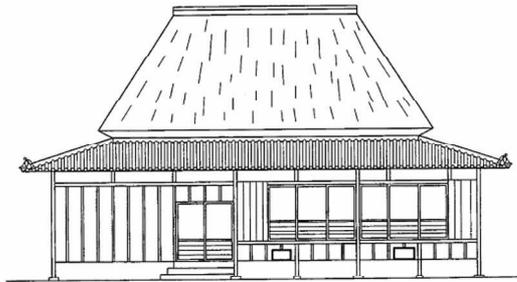
①住まいの地域的区分

徳島県の伝統的な住まいを山・海・平野の地形に合わせて説明する。阿波の民家「徳島県民家緊急調査報告書」では地域区分をA～Eまでの5地区に分類、A・Bが山、C・Dが平野、Eが海となっている。ここでは山を4、海を3、平野を6、住まいに関わる特徴的なものを「その他」としてあげる。

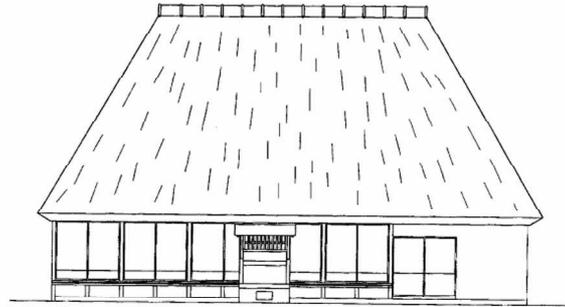


②住まいの類型

- 農家型**
- ・ 町家型に比べ屋根勾配が急
 - ・ 「大屋根葺き降ろし」は山間部に多く、「四方下」または「四方蓋」と呼ばれる四方に庇を回したものは平野に多く見られる
 - ・ 産業としては「農家」「林業」
- 町家型**
- ・ 瓦葺き屋根 ・ 集住的 ・ 産業としては「商業」「漁業」
 - ・ 徳島県の特徴として「うだつのある町屋」「みせ造りの住まい」がある



農家型・四方下



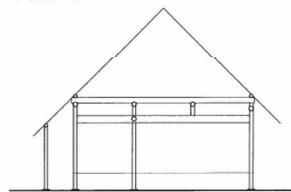
農家型・大屋根葺き降ろし

③構造

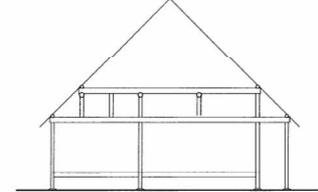
- 農家型**
- ・ 上屋の小屋組を又首(さす)架構とした寄棟造り
 - ・ 屋根は茅などの草で葺く
 - ・ 架構には上屋のみの「上屋づくり」と上屋の周囲半間ほどの幅で下屋をまわした「下屋づくり」がある
- 町家型**
- ・ 和小屋・垂木工法で、切妻や入母屋屋根

※出入口は農家型・町家型ともに平入りが多く、妻入りは少ない。

架構模式図



上屋のみの形式



下屋造

④天井

- イ) 天井を張らず屋根裏をそのまま顕す ロ) 竹スノコ天井・ヤマト天井 ハ) オニ天井
ニ) 竿縁天井

⑤階数

農家型：平屋が基本であるが、又首組で生まれた屋根裏空間を煙草の乾燥スペースや蚕の飼育場所、将来の葺き替えに使う茅の貯蔵場所に使った。

町家型：一階、厨子二階、本二階に区分され、建築年代が新しいほど二階建てが多く、また、二階の天井高も高くなる。

⑥玄関の勝手

玄関の勝手とは、外から主屋に向かって右側に入口・土間があるのを「右勝手」、この逆を「左勝手」という。徳島では概して県域の西・北方で左勝手が多く、板野郡や徳島市より南方では右勝手が主流を占める。

⑦平面形式

伝統的な平面形式は、一間取、横二間取、中ネマ三間取、四間取、四間取りの発展系、変形の5タイプに分類される。

⑧部屋の呼び名と住まい方

- イ) オモチとオク ロ) 農家型の土間・ニワ ハ) カマヤ ニ) 町家型の通りニワ
ホ) ヒロシキ ヘ) ゲンカン構え ト) 隠し部屋 チ) お産の間

※紙面の都合でこの後の山の住まい、海の住まい等の詳細説明は割愛